

令和5年度 第1回富士宮市総合戦略有識者会議 議事録

日 時：令和5年7月19日（水）午後3時00分～午後5時10分

場 所：市役所7階特大会議室

出席者：

- (委 員)：鈴木清秀、赤池英明、伊藤洋子、木本謙正、田中正男、小林純一、藁科可奈、
太田美帆、田中心也
- (市) : 企画部長、企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、芦澤、市川、
広報課長、農業政策課長、食のまち推進室長、観光課長、商工振興課長、
中央図書館長

次 第：

1 開会

2 挨拶

3 委員及び事務局紹介

4 議事

- (1) 富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況について
- (2) 令和4年度地方創生関係交付金事業に係る事業評価について
- (3) 令和5年度地方創生関係交付金事業について

※配付資料

【資料1】

富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況（令和4年度）

【資料2】

令和4年度地方創生推進交付金実施事業一覧表

【資料3】

令和5年度地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税事業一覧表

5 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

6 閉会

議事（１）富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

【小林委員】

- ・コロナ禍になって3年半経っている。今回のK P Iは令和3年に作ったが、マイナスの理由がコロナだけと言うのはいかななものか。コロナを理由にするのであれば、例えば、日本のGDPに対して、これくらいの割合で富士宮市の総生産数も落ちている、よって出荷高が減少したなどの理由が欲しい。
- ・観光客数、宿泊者数が減少したことについても、コロナにより減少した、ではなく、コロナ前の数字、コロナ禍の数字、収束しつつある現在の数字を示すことで、たしかにコロナの影響だということに納得できる。工夫した記載をお願いしたい。
- ・ごみのリサイクル率についてのK P Iで、民間の資源回収量がわからないというが、そもそもK P I設定時に気が付かなかったのか。今後は、K P Iを定めるときは、正確に数字が把握できるものを設定してほしい。
- ・児童虐待の相談件数については、相談件数が増えた方がいいのか悪いのかという難しさがある。

【藁科委員】

- ・ゴミのリサイクル率について、民間業者の数値が把握できないとあるが、事情を説明すれば市に数値を提供してくれるのではないか。
- ・児童虐待の相談が減ったということについて、コロナで育児が密室化し、問題が起きても表面化しにくくなっている。相談が減ったから良しとするのは心配である。
- ・全体を通じて、「数値がマイナスであったのは、コロナのためです」で終わらず、次の一手まで考えてほしい。
- ・宮バスについて、北部に住んでいるため、利用したくても時間が合わず使えない。利用者が伸びない反面、利用したくてもできない人もいる。

【伊藤委員】

- ・女性活躍について、審議会等の委員に占める女性の割合がK P Iとして設定されているが、新しい指標が出てこない。例えば、市内の製造業で働く労働者に占める女性労働者の割合を出すなどすれば、今後の必要な政策も見えてくるのではないか。

《事務局答弁》

K P Iの設定

- ・K P Iの設定については、庁内でも議論になった。
- ・前期計画から引き継ぐK P Iなどもあり変更が難しい部分もあったり、国もウェルビーイング（幸福度）という考え方を取り入れる流れもあったりしているが、確かにK P I設定に甘さがあったものもある。今年度から、第6次総合計画の策定に入っていくため、指摘を受けた部分を踏まえ、政策、目標の設定は、しっかりと検討していく。

観光

- ・今、観光客は増加傾向にあるが、コロナ後の観光というものを今一度見つめ直して、引き続き情報発信をしていかなければならないと認識している。

ゴミのリサイクル率

- ・民間事業者の数值は、民間の収益につながる機密事項にもなることから、教えてもらうのは難しい。
- ・令和6年度からは、富士宮市もプラスチックごみの分別化を進めていくため、さらにリサイクル率は上がっていくのではないかと考えている。

公共交通

- ・今後の方向性としては、市内全域に宮タクを充実させていきたいと考えている。うまくタクシー業者と共存を図り、公費を投入してでも充実させる政策をとっていきたい。

女性の活躍

- ・確かに、女性が働きやすい環境が十分整っているとは言えない。今後はさらに、女性の力はまちの発展に必要であり、これに関する政策は重要。引き続き有効な政策を検討したい。

議事（２） 令和４年度地方創生交付金関連事業に係る事業評価について

【地方への人の流れ】リピーター型交流資源の磨き上げによる富士宮life実現事業

【薬科委員・田中（正）委員】

・企業ガイドブックは非常によいものになっている。インターネット上で配信すれば、県内や首都圏の学生も見ることができるようになる。また、転職の際にも有効なものとなるのではないか。富士市へ通う子どもにも配られないのか。

《事務局答弁》

・ジョブマッチングサイトの運用を検討している。その中で広く周知していきたい。本当に欲しい情報が求職者へ届くように市が踏み込んでいくことも重要と考えている。

【田中（心）委員】

・大都市の人に知ってもらえるように、ダイレクトな施策や情報発信も大事である。

《事務局答弁》

・アフターコロナということもあり、今後、大都市圏においていろいろな観光イベントに参加し、富士宮市の魅力であるアクティビティや富士山世界遺産の構成資産などのPRを行っていく予定である。

【鈴木委員】

・転出超過を食い止めるため、高校生に対する企業ガイドブック作成は非常によい。他の媒体でも発信できるよう期待する。

【赤池委員】

・E-BIKE事業は、北部やまちなかの公共交通に代わるものであるため、効果的だったと思う。今後はインバウンドも入ってくることが想定され、活用したいとの意見もある。市からの応援も期待している。

《事務局答弁》

・E-BIKE事業で今後のインバウンドを取り込めるよう、観光協会とも連携し、より効果の高い情報発信を実施していきたいと考える。

【伊藤委員】

・企業ガイドブックについて、載せてほしい企業を載せているのか。費用は有料か無料か。
・観光のデジタル化も必要であると思うが、アナログの部分も必要である。来た人の感じ方も大事なので、有効な見せ方の方法について検討が必要である。

《事務局答弁》

・掲載を希望する企業を選定し、無料で掲載している。

【太田委員】

・企業紹介ガイドブックについて、掲載が無償であるならば、掲載を希望する企業の把握をしっかりと行う必要がある。

《事務局答弁》

・企業も業務の内容などの見える化を行わないと人材が集まってこないのではないかと思う。今後さらに、映像を使うなどして、企業の魅力が伝わるものにしていきたいと考える。

【小林委員】

・1,000万円を超えてくる事業もある中で、しっかりとPDCAを回して結果を出しているものであれば有効であるといえると思う。そういった意味では有効であったと言える。

【しごと創生】富士山のふもとからつながる地域産業活性化事業

【太田委員】

・首都圏シティセールス推進事業について、市の課題に対してのアドバイスを得たとあるが、どのような課題に対して意見をもらったのか。

《事務局答弁》

・若い女性が市外へ転出したまま戻って来ないことを課題とし、アンケートとオンラインミーティングを実施した。女性が移住を決断するには、その市との関わりがないと行くことはない等、率直な意見をいただいた。今後の政策に活かせるよう検討している。

【鈴木委員】

・ビジネスコネクト富士宮は非常に効果が出ていると思う。感謝の声も届いているので、継続をお願いしたい。

《事務局答弁》

・市としても、ビジネスコネクト富士宮があることで情報が入ってくるようになった。政策を打ちやすくなった部分もあるので有効に活用したい。

【木本委員】

・ビジネスコネクト富士宮の利用促進を行っているが、人的に足りない部分もあるのでさらに厚くしていきたいと考えている。

・産業フェアは市内の子どもたちに対しても地元の企業を知るよい機会となり、将来地元に残ってもらうためのよいPRになったかと思う。継続してもらいたい。

【田中（正）委員】

・LINEを活用した情報発信事業について、良くなってきていると思う。どんどんステップアップしてさらに魅力あるものにしてもらいたい。

《事務局答弁》

・本年6月、LINEクーポンをスタートさせてから登録者が1,500人増加した。実際に足を運んでLINEクーポンの営業活動も行っているが、現在の登録者数1.9万人から3万人を目指す目標で取り組んでいる。また、LINE配信は災害時にも有効なので、最終的には市内の世帯数と同じ6万人の登録を目指したい。

デジタル田園都市国家構想交付金（テレワークタイプ）

- ・特になし

デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ タイプⅠ）

【藁科委員】

・図書館利用カードをマイナンバーカードに紐づけたのはどうかと考える。また、他にも図書館のデジタル化はたくさん行っているはずだが、他のものでK P I を作れなかったか。

《事務局答弁》

・ここで紹介したのは、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して行ったもの。昨今、マイナンバーとの紐づけは、メディアを賑わせているが、マイナンバーカードの普及は必要なものであると考えている。今回の図書館利用カードとの紐づけはシステムの入替時期もあり、新たな機能を持たせるというところで議論した。

【企業版ふるさと納税】 富士宮市の強みを生かした地域活性化事業

・A E D 配備事業について、命の分かれ目は5分以内といわれている中、児童クラブにもA E D 配備してもらいたいと考えるがどうか。学校に取りに行くのでは時間が掛かる。

《事務局答弁》

・担当課に確認して回答したい。（現在、担当課から児童クラブを対象にA E D の配備状況を確認中である。把握でき次第、有識者会議委員への回答を予定している。）

議事（3） 令和4年度地方創生交付金関連事業について

- ・特になし。